

(15) こまつな

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
1 軟腐病 <i>Pectobacterium carotovorum</i>	1.連作を避ける。 2.窒素肥料の過剰施肥を避け、適正施肥をする。 3.排水を良好にする。 4.発病株は早期に処分する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1.病原細菌は害虫（キスジノミハムシ、ヨトウムシ類）の加害傷口から侵入するので、害虫を防除する。 2.コサイド3000とZボルドーは、黒腐病にも登録がある。	発病前から	M1 M1 M1	ド イ ツ ボ ル ド ー A Z ボ ル ド ー コ サ イ ド 3 0 0 0
2 萎黄病 <i>Fusarium oxysporum</i> f. sp. <i>rapae</i>	1.発病株は早めに抜き取り、圃場外に持ち出し、処分する。 2.抵抗性品種または耐病性品種を使用する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1.消毒方法はⅢ-14. 土壌病害虫の防除の項参照。 2.本病対象に防除を実施しているところでは、苗立枯病の発生が少ない。	播種10日前まで	— —	ガ ス タ ー ド 微 粒 剤 バ ス ア ミ ド 微 粒 剤
3 根こぶ病	1.苗床は無病な土を使用する。 2.前年発生したところでは連作を避け、アブラナ科以外の作物との3年以上の輪作をする。 3.石灰窒素を施用し、土壌の酸度を6以上に矯正する。 4.圃場の排水を良好にし、低湿地や排水不良地での作付けを避ける。 5.発病株は根部を含めて、完全に除去する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1.土壌消毒方法はⅢ-14. 土壌病害虫の防除の項参照。	土 壌 消 毒	— —	ガ ス タ ー ド 微 粒 剤 バ ス ア ミ ド 微 粒 剤
		播 種 前	29	フ ロ ン サ イ ド 粉 剤
		播種または定植前	21 21 36 36	オ ラ ク ル 顆 粒 水 和 剤 オ ラ ク ル 粉 剤 ネ ビ ジ ン 粉 剤 ネ ビ リ ユ ウ
4 白さび病 <i>Albugo macrospora</i>	1.排水を良好にし、過湿を避ける。 2.過繁茂しないよう、播種量を適正にする。 〈薬剤使用の特記事項〉 1.アミスター20フロアブルは、移植栽培の場合は育苗期に使用する。	播 種 前	11・4	(混) ユニフォーム粒剤
		発 病 初 期	11 21 21	アミスター20フロアブル ランマンフロアブル ライメイフロアブル
5 コナガ	1.防虫ネット（2mm目合以下）で被覆する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1.カスケード乳剤はアオムシ、マメハモグリバエにも登録がある。 2.スピノエース顆粒水と剤はハモグリバエ類、ハイマダラノメイガにも登録がある。	播 種 時	4A	モ ス ビ ラ ン 粒 剤
		発 生 初 期	5 5 6 6 11A 11A 11A 11A 11A 11A 11A 11A 11A 11A 11A 11A 13 15 22B 28 UN	ス ピ ノ エ ー ス 顆 粒 水 和 剤 デ ィ ア ナ S C ア フ ァ ー ム 乳 剤 ア ニ キ 乳 剤 ト ア ロ ー 水 和 剤 C T ト ア ロ ー フ ロ ア ブ ル C T バ シ レ ッ ク ス 水 和 剤 ゼ ン タ ー リ 顆 粒 水 和 剤 デ ル フ ィ ン 顆 粒 水 和 剤 エ ス マ ル ク D F フ ロ ー バ ッ ク D F エ コ マ ス タ ー B T チ ュ ー ン ア ッ プ 顆 粒 水 和 剤 サ ブ リ ナ フ ロ ア ブ ル ジャックポット顆粒水と剤 コ テ ツ フ ロ ア ブ ル カ ス ケ ー ド 乳 剤 ア ク セ ル フ ロ ア ブ ル プ レ バ ソ ン フ ロ ア ブ ル 5 プ レ オ フ ロ ア ブ ル
6 ハスモンヨトウ	1.育苗床では防虫ネット（4mm目合以下）で被覆する。 2.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 3.防虫ネット（4mm目合以下）等でトンネル被覆すれば、飛来、産卵を防止できる。	若 齢 幼 虫 期	6	ア ニ キ 乳 剤

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

こまつな

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
7 ヨトウムシ	1. 育苗床では防虫ネット（4mm目合以下）で被覆する。 2. 卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 3. 防虫ネット（4mm目合以下）等でトンネル被覆すれば、飛来、産卵を防止できる。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. スピノエース顆粒水和剤はハモグリバエ類、ハイマダラノメイガにも登録がある	若 齢 幼 虫 期	5	スピノエース顆粒水和剤
8 アオムシ	1. 育苗床では防虫ネット（4mm目合以下）で被覆する。 2. 幼虫は見つけしだい捕殺する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. スピノエース顆粒水和剤はハイマダラノメイガにも登録がある。	発 生 初 期	5 13	スピノエース顆粒水和剤 コテツフロアブル
9 アブラムシ類	1. 周辺雑草を防除する。 2. 施設栽培の場合、飛び込み防止のための防虫ネット（1mm目合以下）で被覆する。 3. 施設周辺にシルバーテープをはる。	播 種 時	4A 4A 4A 4A 4A	モスピラン粒剤 ダントツ粒剤 アルバリン粒剤 スタークル粒剤 アクタラ粒剤 5
		発 生 初 期	3A 4A 4A 4A 29	アグロスリン乳剤 モスピラン顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤 ウララ D F
10 キスジノミハムシ	1. 育苗床では防虫ネット（0.8mm目合以下）で被覆する。 2. アブラナ科野菜の連作を避ける。	播 種 前	3A	フォー ス 粒 剤
		播 種 時	4A 4A	アルバリン粒剤 スタークル粒剤
		発 生 初 期	4A 4A 4A 6 22B	モスピラン顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤 ア ニ キ 乳 剤 アクセルフロアブル
11 ハモグリバエ類	1. 周辺雑草を防除する。 2. 飛び込み軽減のため防虫ネット（1mm目合以下）で被覆する。	発 生 初 期	5 5 6	スピノエース顆粒水和剤 デ イ ア ナ S C ア ニ キ 乳 剤
12 コガネムシ類幼虫	1. 発生の少ない圃場では、被害株の周辺を掘り起こして幼虫を捕殺する。 2. コガネムシ類の産卵場所になるので、堆肥や有機物の野積みは控える。			
13 ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ	1. 水田への転換可能などところでは1～2年畑を水田化する。			
14 アザミウマ類	1. 紫外線反射資材を用いると、成虫の飛来を軽減することができる。 2. 育苗床では防虫ネット（1mm目合以下）で被覆する。	発 生 初 期	5 5	デ イ ア ナ S C スピノエース顆粒水和剤

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する